

第9回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 問題・課題評価シート及び「耳川通信簿」(案)

目次	
○問題・課題評価シート【山地領域】	1
○問題・課題評価シート【ダム領域】	2
○問題・課題評価シート【河道領域】	3
○問題・課題評価シート【河口・海岸領域】	4
○各領域の総合評価(令和元年度)	5
○耳川流域全体の総合評価(令和元年度)	6
○「耳川通信簿」耳川流域全体(令和元年度)	7

令和2年8月5日

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出	11.裸地面積	3	主	崩壊地は、至近3年間と比較すると「改善傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	A	a	△	事務局案で了承する。近年は大規模出水が発生しておらず崩壊地状況の変化は引き続き見ていく必要がある。	A	a	△
		12.ダム堆砂	5	主	ダム堆砂は、至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると「普通状態」と評価される。	B	b					
		5.河道縦横断	7	主	対象箇所全体の河積変化率は、至近3年間の変動幅内であるため「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b					
		25.土砂除去量(河道・河口海岸)	14	主	令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であるため「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b					
		30.ヒアリング	15		複数の森林管理者から「維持傾向」の回答を得たことから、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると「普通状態」と評価される。	B	b					
	(2)土石流等の土砂災害の発生	14.土石流危険渓流整備(土砂災害発生状況)	18		土砂災害発生件数は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△
		15.保安施設整備(土砂災害発生状況)	18									
	(3)自然景観の消失	17.写真観測(自然景観)	21		大規模崩壊跡地は、至近3年間の変動幅範囲内であることから「維持傾向」と評価される。森林管理者ヒアリングにおいて「普通状態」の回答を得た。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△
		17.写真観測(親水景観)	21		山地の親水景観は、前年度と比較して大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると「良い状態」と評価される。	B	a					
		30.ヒアリング	28		山地の自然景観の方向性は、「維持傾向」との回答があった。自然景観の状態は、「普通状態」の回答を得た。	B	b					
	(4)生物生息生育環境の変化	30.ヒアリング	31		生物生息生育環境の方向性は、ワーキンググループ討議結果から、「維持傾向」と評価される。状態は「普通状態」と評価される。	B	b	△	今年度の状況と比較した結果、維持傾向 普通状態と評価する。	B	b	△
	(5)産業基盤の流出	11.裸地面積	34		崩壊地は、至近3年間の変動幅を下回っていることから「改善傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	A	a	○	事務局案で了承する。	A	a	○
		27.流木処理実績	35		令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	B	a					
		26.漂着物量(河道・河口海岸)	36		令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて「良い状態」の回答を得た。	B	a					
16.路網密度		37	主	路網密度は、微増ではあるが「改善傾向」である。状態は、『第7次宮崎県森林・林業長期計画』平成32年目標値を上回っているため「良い状態」と評価される。	A	a						
30.ヒアリング		38		山林、作業道の管理状況は、「維持傾向」及び「普通状態」の回答があった。	B	b						
(6)渇水緩和機能の低下	13.流況	41		渇水緩和機能は、流況分析の結果、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△	
(7)洪水緩和機能の低下	13.流況	41		洪水緩和機能は、流況分析の結果、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△	
(8)砂防施設容量減少	23.写真観測(砂防施設)	50		砂防施設容量は、十分確保されている状態が維持されており、「維持傾向」及び「良い状態」と評価される。	B	a	○	事務局案で了承する。	B	a	○	

【山地領域目標】
森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。

山地領域評価：『△』

【評価コメント】
令和元年度は「悪化傾向」、「悪い状態」の評価となった項目がなく、多くの項目で概ね「維持傾向」、「普通状態」が維持されていることから、山地領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

	： 治水面（防災面）
	： 利水面（水利用面）
	： 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A：改善傾向， B：維持傾向， C：悪化傾向
【状態】 a：良い状態， b：普通状態， c：悪い状態

評価凡例

○：問題なく良いレベル
△：普通のレベル
×：問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【ダム領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価						
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2		
						方向性	状態			方向性	状態			
ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度低下	12.ダム堆砂	2		ダム貯水池末端部の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、背水の影響はみられないことから、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。 河川工事により発生する濁りを減らすような対策を希望する。	B	b	△		
	(10)利水容量の減少	12.ダム堆砂	13		利水容量内の堆砂は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△		
	(11)取水口の埋没	12.ダム堆砂	20		取水口付近の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△		
	(12)放流設備の機能障害	27.流木処理実績	27		令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	B	a	○	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 ヒアリング(生物生息生育環境)に関して「悪化傾向」、また魚類、ヒアリング(生物生息生育環境)、河床材料で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。	-	-	-		
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		今年度調査未実施	-	-			-	-			
	(13)利水設備の機能障害	27.流木処理実績	27		令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	B	a	○		-	-	-		
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		今年度調査未実施	-	-			-	-			
	(14)生物生息生育環境の変化	1.水質	33		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-	×		-	-	×		
		6.魚類	39		全体の種数・個体数及びカマツカの個体数は大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて複数の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c			B	c			
		7.底生動物	41		ダム貯水池内の底生動物は、多少の増減はあるものの、全体的に至近3回の調査結果の変動幅内に概ね入ることから、「維持傾向」と評価される。	B	-			B	-			
		8.付着藻類	43		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-			-	-			
		30.ヒアリング	45		漁協ヒアリングにおいて「悪化傾向」および「悪い状態」の回答を得た。	C	c			C	c			
		6.漁獲量(内水面)	46		漁獲量の方向性は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。漁獲量の状態は、漁協ヒアリングの結果、全ての漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c			-	-			
	(15)生物生息空間の連続性遮断	2.河床材料	49		河床材料の粒度分布は、各ダムの上下流ともに大きな変化は見られないことから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c	×		事務局案で了承する。	B	c		×
		6.魚類	51		全体の種数・個体数及びカマツカの個体数は大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c			B	c			
7.底生動物		52		ダム上下流の底生動物は、多少の増減はあるものの、全体的に至近3回の調査結果の変動幅内に概ね入ることから、「維持傾向」と評価される。	B	-	B			-				

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河道領域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-	×	-	-	×	
		30.ヒアリング	4		付着藻類の変化に関する漁協ヒアリングにおいて、「悪化傾向」の回答があった。状態は、ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。	C		c
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	6		河川景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△
		17.写真観測(親水景観)	6		親水景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると、「良い状態」と評価される。	B	a		事務局案で了承する。	B	a	
	(18)生物生息生育環境の変化	1.水質	29		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-	△	-	-	△	
		2.河床材料	35		河床材料は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	B	c		河道領域全体ではおおむね普通状態の回答であるため、状態評価を普通状態とする。	B		b
		4.河道形状	37		河道形状は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて、河道領域全体ではおおむね「普通状態」との回答であった。	B	b		河道領域全体ではおおむね普通状態の回答であるため、状態評価を普通状態とする。	B		b
		6.魚類	41		魚類の方向性は、至近3年間の変動幅を下回る箇所数が確認されたことから、総合的に「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。	C		c
		7.底生動物	46		底生動物は、多少の増減はあるものの、全体的に至近3回の調査結果の変動幅内に概ね入ることから、「維持傾向」と評価される。	B	-		事務局案で了承する。	B		-
		8.付着藻類	48		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-		-	-		-
		9.河岸植生	49		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-		-	-		-
		29.水質、底生動物	51		方向性は、至近3年間の変動幅よりも増加傾向を示すことから「改善傾向」と評価される。状態は、平均点が3.83点であることから「良い状態」と評価される。	A	a		事務局案で了承する。	A		a
		30.ヒアリング	53		生物生息生育環境に関して、「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答が多かった。	C	c		事務局案で了承する。	C		c
		6.漁獲量(内水面)	54		漁獲量は、至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	B	c		-	-		-
	(19)瀬・淵の消失	4.河道形状	57		瀬・淵の数は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて、河道領域全体ではおおむね「普通状態」との回答であった。	B	b	△	河道領域全体ではおおむね普通状態の回答であるため、状態評価を普通状態とする。	B	b	△
	(20)橋脚の不安定化	5.河道縦横断	59		橋脚基礎は、前年度と比較して大きな変化は見られず、問題も生じていないことから、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。八重原橋の写真で基礎の露出がみられるが、これは河床が下がっていることが原因と思われる。	B	b	△
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	59		橋脚基礎の状況に大きな変化は見られず、安全性に関して大きな問題はない。	-	-	-	-	-		
	(21)護岸基礎部の被災	5.河道縦横断	64		護岸基礎部は、前年度と比較して大きな変化は見られず、問題も生じていないことから、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	64		護岸基礎部の状況に大きな変化は見られず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	-	-	-	-	-		
	(22)取水の不安定化	1.水質	70		水道原水水質は、至近3年間の変動幅に含まれることから「維持傾向」、設定した基準値以内であることから「良い状態」と評価される。	B	a	△	事務局案で了承する。	B	a	△
5.河道縦横断		71	主	富島幹線水路は、前年度同様、ポンプアップによる取水を行なっていることから、「維持傾向」及び「悪い状態」と評価される。	B	c	富島幹線水路取水口は、年々浸食傾向にあり昨年ポンプアップの施設が設置された。今後も河床が下がりが続けると思われる。		B	c		
24.写真観測(取水口堆砂状況)		71		取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	-	-	-		-	-		
(23)治水安全度低下	5.河道縦横断	74		対象箇所全体の河積変化率は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△	
	18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	81		河川状況や構造物基礎の状況の大きな変化は見られない。	-	-		-	-	-		
(24)氾濫発生時の被害拡大	31.水害統計資料	98		近年、河川の浸水被害は発生していないことから、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△	
	20.写真観測(洪水時流下状況)	99		今年度調査未実施	-	-		-	-	-		

【河道領域目標】
適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。

河道領域評価：『△』

【評価コメント】
ヒアリング(付着藻類、生物生息生育環境)、魚類に関して「悪化傾向」、またヒアリング(付着藻類、生物生息生育環境)、河床材料、河道形状、魚類、河道縦横断(取水口)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河道領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

黄色	:治水(防災面)
水色	:利水(水利用面)
緑色	:環境面

個別評価凡例

【方向性】A:改善傾向, B:維持傾向, C:悪化傾向
【状態】a:良い状態, b:普通状態, c:悪い状態

評価凡例

○:問題なく良いレベル
△:普通のレベル
×:問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河口・海岸領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河口・海岸領域	(25) 生物生態環境の変化	1. 水質 (海域: 出水時)	3		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-	△	事務局案で了承する。	-	-	△
		3. 底質 (海域: 出水時)	7		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-					
		6. 漁獲量 (海域)	9		漁獲量(海域)は、至近3年間の変動幅内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった。	B	b					
		6. 漁獲量 (内水面)	9		漁獲量(内水面)は、至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	B	c					
		7. 底生動物 (海域: 出水時)	11		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-					
		10. 藻場 (海域)	13		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-					
	(26) 防災機能の低下	28. 航空写真 (汀線比較)	18		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-	-	河口に土砂が堆積し、内水面漁業(しらす漁)への支障、堆積した土砂上で釣りをする人のマナー、ごみが問題になっている。	-	-	-
	(27) 親水空間の減少	17. 写真観測 (景観・親水)	21		海岸の親水景観に大きな変化は見られない。	-	-	-	-	-	-	-
		28. 航空写真 (汀線比較)	23		今年度調査未実施のため、今回委員会での評価対象外	-	-	-	-	-	-	-
	(28) 港湾施設の埋没	25. 土砂除去量 (河道・河口海岸)	26		令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であるため「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△	-	-	-	-
	(29) 治水安全度低下	5. 河道縦横断	29		河積変化率の平均は、至近3年間の変動幅内であるため「維持傾向」と評価される。基準年を上回っており「良い状態」と評価される	B	a	○	事務局案で了承する。	B	a	○
	(30) 船舶の航行(操業上)の支障	5. 河道縦横断	34		航路深さは至近3年間と比較し範囲内となっていることから「維持傾向」と評価される。必要深さは100%確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	B	c	△	事務局案で了承する。	B	c	△
		25. 土砂除去量 (河道・河口海岸)	35		令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であるため「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b					
		20. 写真観測 (洪水時流下状況)	36		今年度調査未実施	-	-					
		21. 写真観測 (海域漂流状況)	36		今年度調査未実施	-	-					
		22. 写真観測 (海岸漂着状況)	36		今年度調査未実施	-	-					
		26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	38		令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	B	a					
	30. ヒアリング	39		流木漂着等による船舶の航行の支障は、漁協ヒアリングの結果、「維持傾向」と評価される。及び「普通状態」の回答であった。	B	b						
	(31) 海岸環境悪化	22. 写真観測 (海岸漂着状況)	42		今年度調査未実施	-	-	○	事務局案で了承する。	B	a	○
		26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	43		令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて「良い状態」の回答であった。	B	a					
	(32) 漁業(操業)の支障	26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	46		令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて「良い状態」の回答であった。	B	a	△	事務局案で了承する。	B	a	△
		22. 写真観測 (海岸漂着状況)	47		今年度調査未実施	-	-					
		20. 写真観測 (洪水時流下状況)	48		今年度調査未実施	-	-					
6. 漁獲量 (海域)		49		漁獲量(海域)は、至近3年間の変動幅内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった	B	b						
30. ヒアリング		50		漁業(操業)の支障に関して、「維持傾向」及び「普通状態」の回答であった。	B	b						
(33) 氾濫発生時の被害拡大	31. 水害統計資料	52		近年、河川の浸水被害は発生していないことから、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△	
	20. 写真観測 (洪水時流下状況)	53		今年度調査未実施	-	-						

【河口・海岸領域目標】
水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。

河口・海岸領域評価:『△』

【評価コメント】
ヒアリング(船舶航行支障、漁業支障)に関して「悪化傾向」、また河道縦横断に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

黄色	: 治水面(防災面)
水色	: 利水面(水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A: 改善傾向, B: 維持傾向, C: 悪化傾向
【状態】 a: 良い状態, b: 普通状態, c: 悪い状態

評価凡例

○: 問題なく良いレベル
△: 普通のレベル
×: 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

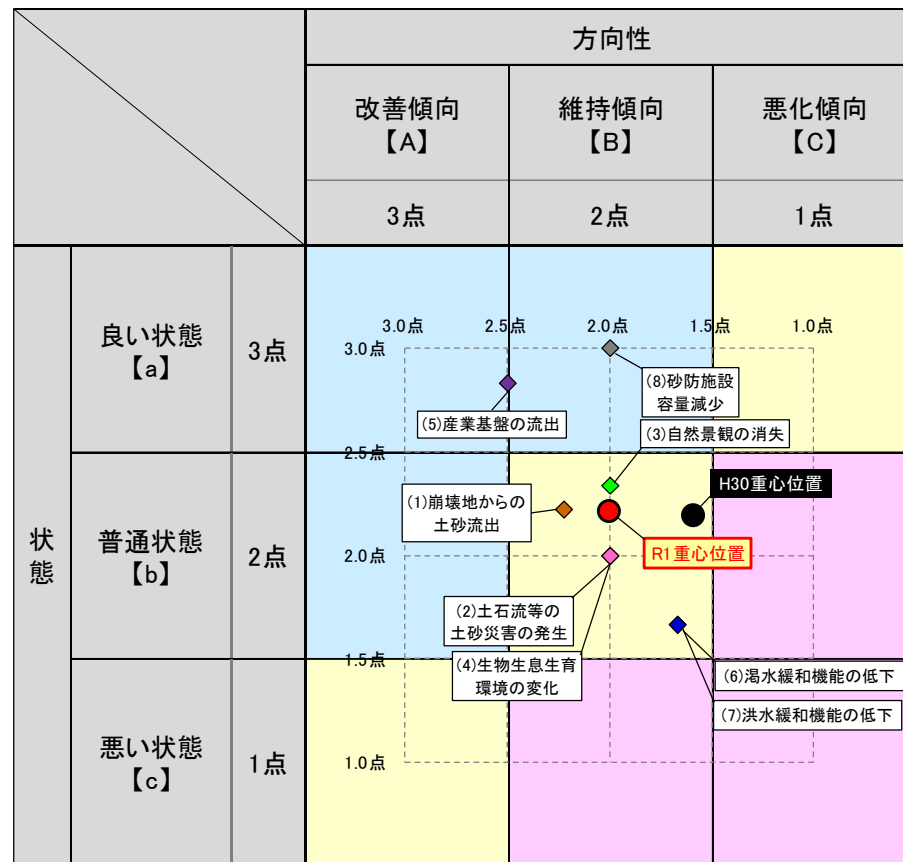
「耳川通信簿」耳川流域全体（令和元年度）

資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	事務局評価		評価・改善委員会の評価	
			領域の評価			
資料 ③-1	山地領域	(1) 崩壊地からの土砂流出	△	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 令和元年度は「悪化傾向」、「悪い状態」の評価となった項目がなく、多くの項目で概ね「維持傾向」、「普通状態」が維持されていることから、山地領域は総合的に「△」と評価される。	山地領域 △	○ △ ×
		(2) 土石流等の土砂災害の発生	△			
		(3) 自然景観の消失	△			
		(4) 生物生息生育環境の変化	△			
		(5) 産業基盤の流出	○			
		(6) 渇水緩和機能の低下	△			
		(7) 洪水緩和機能の低下	△			
		(8) 砂防施設容量減少	○			
資料 ③-2	ダム領域	(9) 貯水池末端部治水安全度低下	△	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 ヒアリング（生物生息生育環境）に関して「悪化傾向」、また魚類、ヒアリング（生物生息生育環境）、河床材料で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。	ダム領域 △	○ △ ×
		(10) 利水容量の減少	△			
		(11) 取水口の埋没	△			
		(12) 放流設備の機能障害	○			
		(13) 利水設備の機能障害	○			
		(14) 生物生息生育環境の変化	×			
(15) 生物生息空間の連続性遮断	×					
資料 ③-3	河道領域	(16) 付着藻類の変化	×	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 ヒアリング（付着藻類、生物生息生育環境）、魚類に関して「悪化傾向」、またヒアリング（付着藻類、生物生息生育環境）、河床材料、河道形状、魚類、河道縦横断（取水口）に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河道領域は総合的に「△」と評価される。	河道領域 △	○ △ ×
		(17) 河川景観の変化	△			
		(18) 生物生息生育環境の変化	△			
		(19) 瀬・淵の消失	△			
		(20) 橋脚の不安定化	△			
		(21) 護岸基礎部の被災	△			
		(22) 取水の不安定化	△			
		(23) 治水安全度低下	△			
(24) 氾濫発生時の被害拡大	△					
資料 ③-4	河口・海岸領域	(25) 生物生息生育環境の変化	△	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 ヒアリング（船舶航行支障、漁業支障）に関して「悪化傾向」、また河道縦横断に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。	河口・海岸領域 △	○ △ ×
		(26) 防災機能の低下	-			
		(27) 親水空間の減少	-			
		(28) 港湾施設の埋没	△			
		(29) 治水安全度低下	○			
		(30) 船舶の航行（操業上）の支障	△			
		(31) 海岸環境悪化	○			
		(32) 漁業（操業）の支障	△			
(33) 氾濫発生時の被害拡大	△					
総合評価			【耳川水系目標】 耳川をいい川にする 【評価コメント】 令和元年度は、山地領域、ダム領域、河道領域、河口・海岸領域ともに普通レベルであり、耳川水系全体として、総合的に普通レベル「△」と評価される。 しかしながら、悪い評価の問題・課題が見られることから、今後も引き続き各種行動計画を推進していく必要がある。	耳川水系 △	○ △ ×	

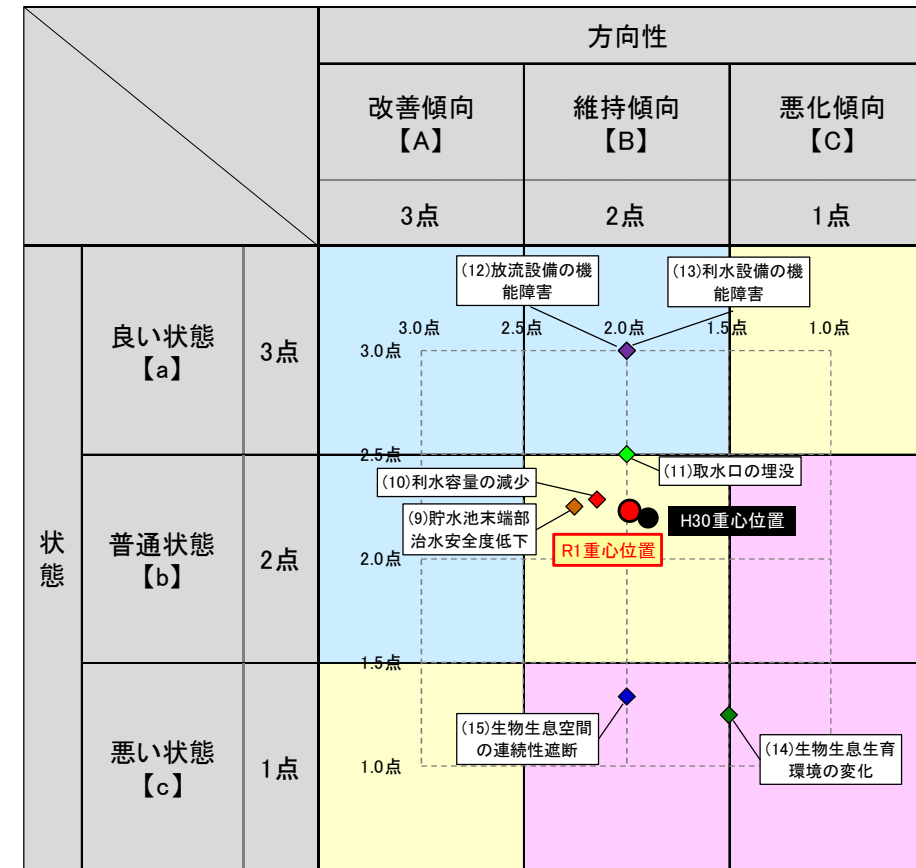
着色凡例
 : 治水面（防災面）
 : 利水面（水利用面）
 : 環境面

課題評価の凡例
 ○: 問題なく良いレベル
 △: 普通のレベル
 ×: 問題があり悪いレベル

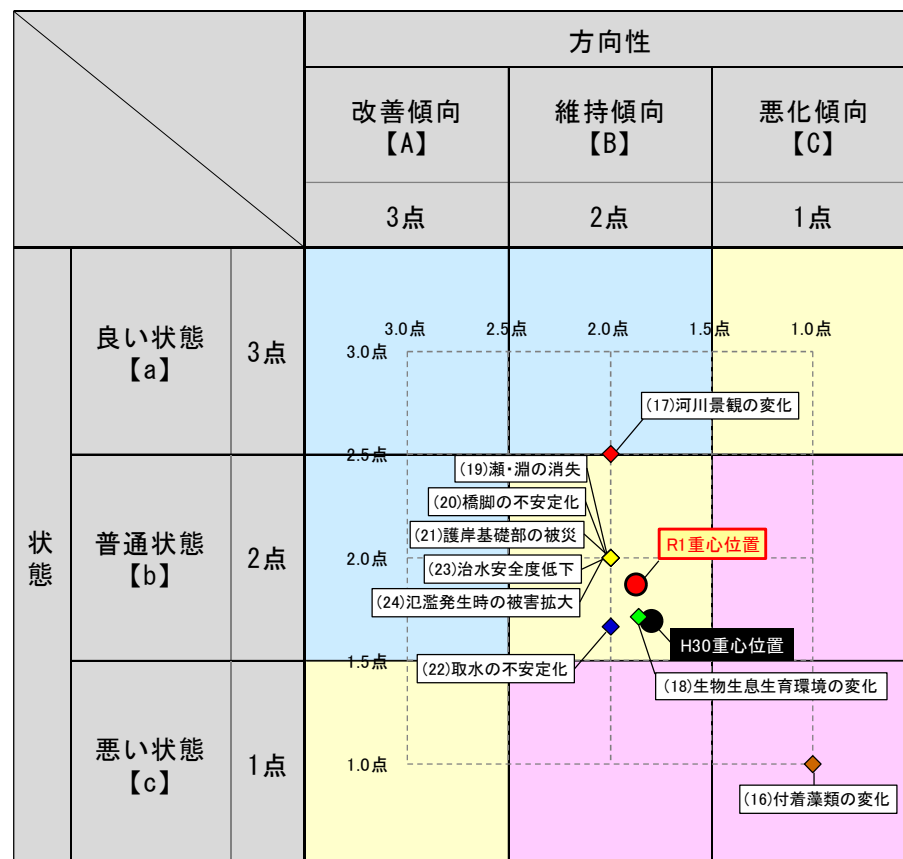
山地領域の総合評価（令和元年度）



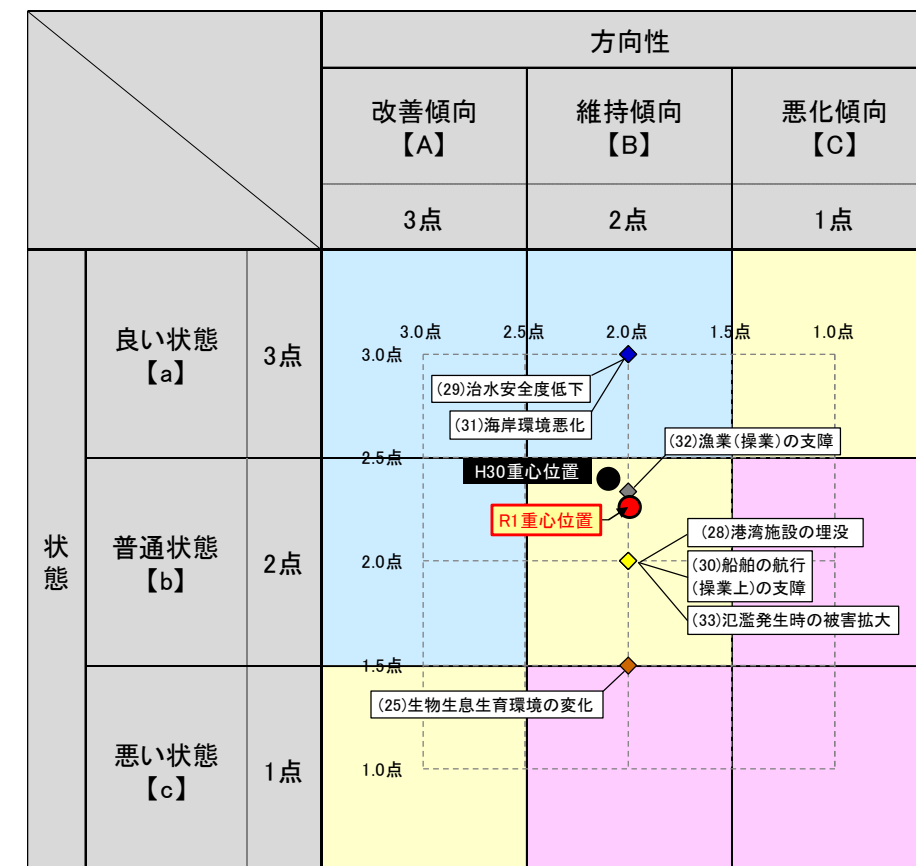
ダム領域の総合評価（令和元年度）



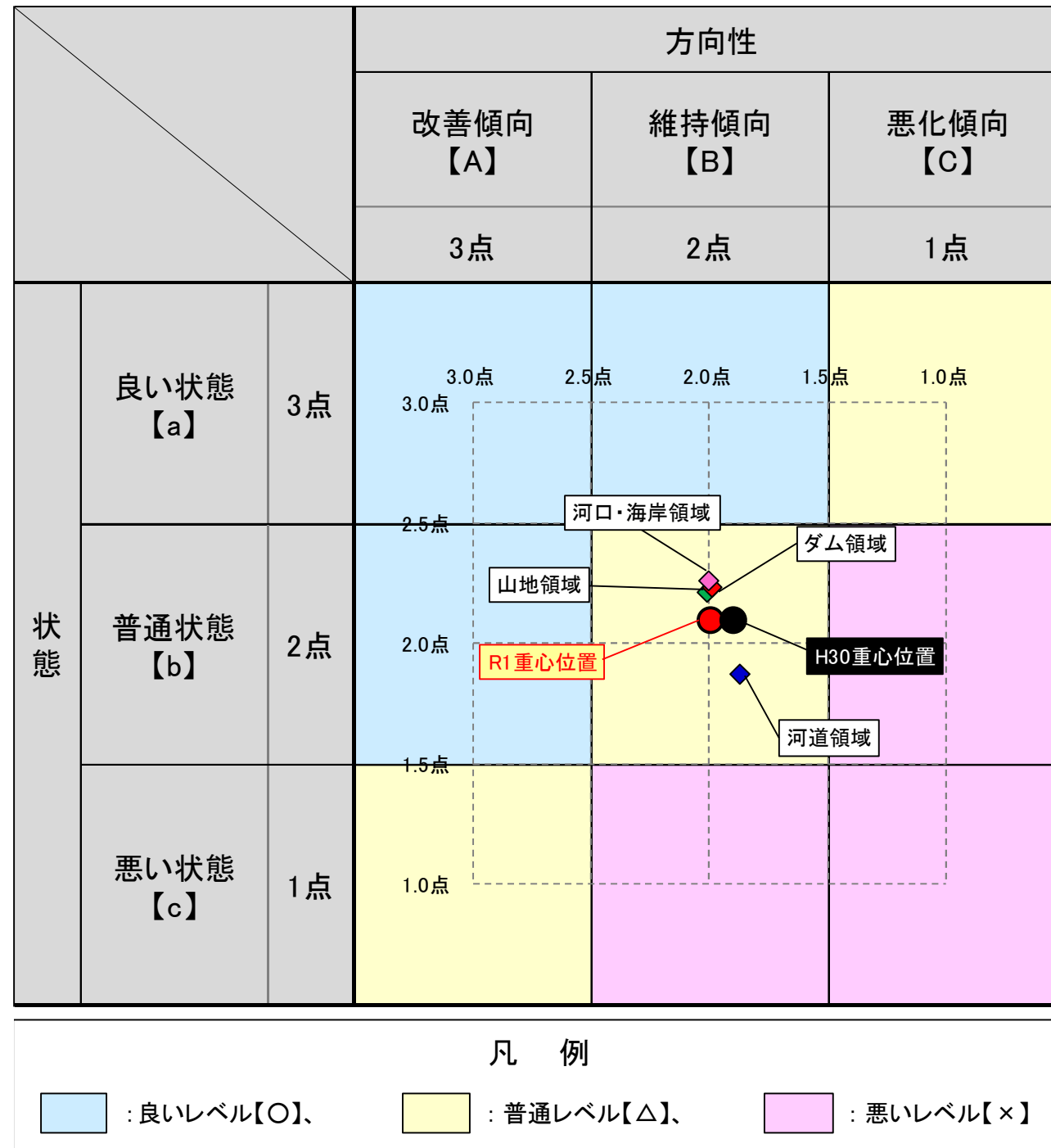
河道領域の総合評価（令和元年度）



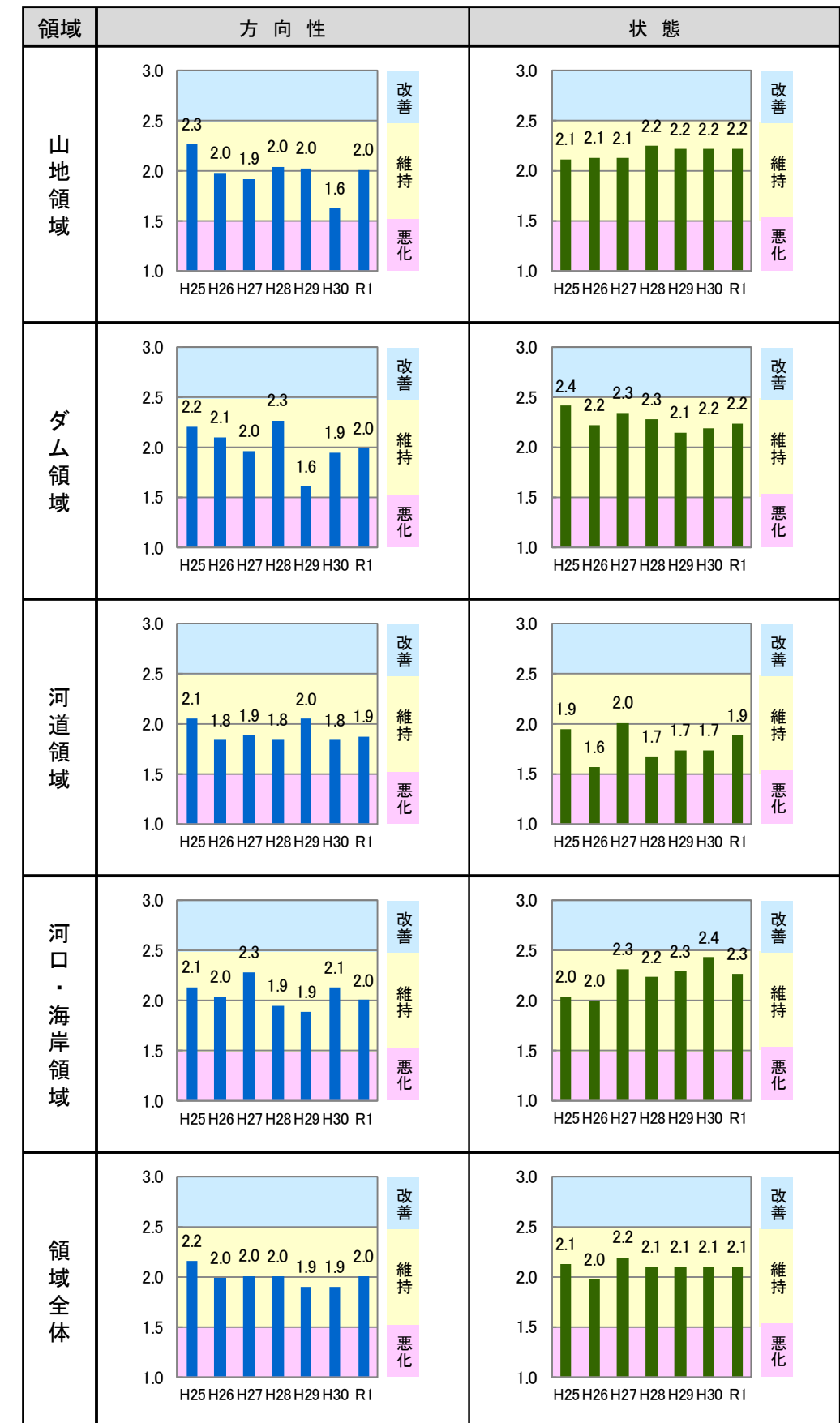
河口・海岸領域の総合評価（令和元年）



耳川流域全体の総合評価（令和元年度）



注1) グラフは領域ごとの評価結果をプロットしている。
 注2) 重心位置は、これらの評価結果の総合的な位置付けを示したものである。



注) 評価手法を改良しているモニタリング項目があるため、正確に経年変化を捉えていないケースがある。